

アコヤガイモニタリング調査結果

(調査日：令和2年5月21日)

愛媛県農林水産研究所水産研究センター

1 調査結果の概要

- 肉質に関して、栄養蓄積状態の指標となるグリコーゲン含量は、漁場によってばらつきがあるものの、全海域の平均値では5.2%となっており、状態は概ね良好であった。
- 貝柱の赤変個体は確認されず、赤変度を示すa値の平均値は低かった。
- 昨年の大量へい死時にみられた外套膜の萎縮は確認されなかった。また、貝殻真珠層の褐変もみられなかった。

2 調査結果一覧

漁場*1	貝の種類	グリコーゲン含量	a値	赤変個体数
		平均値 (%)	平均値	
北部	日中交雑貝*2	4.6(2.3)	-1.0(-0.4)	0
中部①	日中交雑貝	4.0(6.8)	-0.2(-0.6)	0
中部②	日中交雑貝	4.9(6.8)	-0.5(-0.8)	0
南部	日本貝	6.6(6.3)	-0.2(-1.0)	0
南部	日中交雑貝	5.7(5.2)	-0.7(-0.8)	0
平均値		5.2(5.5)	-0.5(-0.7)	

*1 漁場： 北部：三浦半島以北 中部：由良半島から三浦半島 南部：由良半島以南

*2 日中交雑貝：日本貝と中国貝の交雑貝

() 内は昨年同月の値

3 調査方法

- 4月から11月まで月1回(概ね第3週)、各漁場・種類毎に20個を調査。
- 愛媛県漁業協同組合連合会宇和島支部が調査日約2日前に上記漁場で採取して持ち込んだアコヤガイをサンプルとした。

4 調査項目および判断指標

- グリコーゲン含量(%): アコヤガイの栄養の蓄積状況を示す指標で、数値が高いほど健康状態が良好。
- a値: 閉殻筋(貝柱)の赤色度を示す指標で、数値が高いほど赤みが強い。赤みを帯びた黄色で3、明らかな赤色で5以上。